



縁は不思議で温かい

川本 廣美
観光ボランティアガイド

🍷 忘れられない忘年会

私が8歳の息子と2人で暮らしているときのことです。私は佐川町のあるスーパーのレジ担当として働きだし、老舗の鰻の店「大正軒」で開催された職場の忘年会に出席しました。息子が「少しの時間だから1人で留守番できるよ」と機嫌よく送り出してくれたからです。おいしい料理を食べながら「私だけがこんなに良い思いをして息子に申し訳ない」という思いが何度も頭をよぎっていました。

そして、忘年会のお開きが近づきました。私はのこった料理を前にして、「モツイナイ、1人で待っている息子に食べさせてあげたい」という思いから、私はパックをもらい、のこされた料理を詰め始めました。すると、「そんないやらしい、きたないことやめなさい」という声が飛んできました。私の手は途中で止まり、固まってしまいました。周りもシーンとなり、その場の雰囲気も息が詰まりそうになりました。

そのときのことです。突然1人の女性が私のテーブルの前に座り、「お婆さんが1人で待っているから、のこったおいしい料理を私も…」と言って、さっさとパックに詰め始めました。なんと、この女性は社長さんの奥さんだったのです。奥さんは、惣菜部で料理作りを専門に担当されていたので、めったに表に出られません。なので私は、その女性の方が社長の奥さんだということは知りませんでした。

その日は、私は息子と2人で、手を合わせて感謝し、楽しく、おいしく、ありがたくいただきました。

そして、その日のことは、心に強くのこり、どんなことも乗り越えられる人生を生きる力となっていきました。ただ、心のこりがありました。それは、私が奥さんに感謝しつつも感謝の気持ちを伝えることができないまま時が過ぎてしまったことです。

🍷 ボランティアガイドのリレー

2007年12月、佐川町の酒造会社「司牡丹」の自家「竹村邸」が国の重要文化財に指定されました。佐川町では地域の観光振興施策として観光ボランティアガイドの募集をはじめ、私も応募しました。そして、私の牧野博士を紹介するガイド人生もスタートしました。



月日は流れ、私は2人の女の子の孫に恵まれました。上の孫の琉楓が小学校1年生の時に、高知の偉人や歴史、食べ物などについて高知の子どもたちから発信できるようにと企画された「こうち子ども観光大使」になるための講習会が開催されました。その講習会に参加した琉楓は、誰に誘われたわけでもないのに参加した小学生の中でただ一人、牧野博士に特別な関心を寄せ、講習会最後の課題として牧野博士のプレゼンを無事成功させ、「こうち子ども観光大使」になりました。

琉楓と私は、「こうち子ども観光大使」の活躍の場を求めて早速、高知県立牧野植物園を訪れました。園は快く琉楓の「語り部」としての場を提供してくれることになり、それから6年間、1度も休むことなく琉楓は牧野博士を語り続けました。最初のお客さんは2、3名でしたが、徐々に増えていきました。「この子にアイスクリームをプレゼントしたい」「よくがんばったね」と花束や折り紙の花のプレゼントなど、神奈川や兵庫、香川をはじめ、県内外のお客様から豪華なプレゼントをいただきました。6年間ずっと見守っていただいた方など、数えきれないほどの方々に見えない力で支えられてきたことに対して、深くお礼申し上げたいと思います。

また、琉楓が3年生の時にうけた地元TV局の取材に続いて全国のTV局や新聞社、ラジオ局からの取材オファもいただき、活動への理解が徐々に広がっていきました。

🍷 縁は不思議で温かい

ある日、植物園で語り終えたときに「テレビを見て佐川町から来ました。牧野といひます」と声をかけられました。牧野博士のひ孫さんで東京の牧野記念庭園の学芸員をされている

一淳さんが佐川に帰郷されて、親族が「お食事会」を開くことになり、そのお誘いでした。驚きました。それにもましてもっと驚いたのは、この方は決して忘れることのないあの日の社長さんの奥さんの弟さんだったのです。社長さんも奥さんも亡くなられたとのことでした。(合掌)

社長さんの奥さんとの出会いから数年後に、牧野富太郎博士を知り、自らがガイドとして牧野博士を語り20年。上の孫の琉楓が7年、下の孫の絆心が1年、思えば3人で延べ28年間、知らず知らずのうちに社長さんの奥さんの身内の牧野富太郎博士の人となりや偉業を語り継いでいました。私の「縁」は不思議でとても温かいものでした。

2023年4月から高知県民待望の牧野博士をモデルにしたNHK朝の連続ドラマ「らんまん」が始まり、牧野植物園の来園者も急速に増え、来園者数も開園以来の記録をつくりました。2024年2月には、内閣府青年国際交流事業の一つである「世界青年の船」事業の地域実践活動が高知県で行われることになり、琉楓と絆心に英語と日本語でのプレゼンのチャンスが巡ってきました。12日、牧野植物園で大役を終えた二人と牧野博士を重ね合わせながら、これまでの貴重な縁に感謝し、これからもその縁を大切にしていきたいと思っています。

KOCHI IYEO HP



2024年9月5日発行
発行者
高知県青年国際交流機構
(KOCHI IYEO)
会長 前田正也

☎ 090-9552-0022

✉ xiwang@yacht.ocn.ne.jp